

生体への吸収性を飛躍的に向上させた 「次世代型クルクミン製剤」の開発に成功

付加価値の高い機能性食品・飲料素材の研究開発事業を行っている株式会社セラバリューズ（本社：東京都千代田区 社長：橋本 正）は、独自のノウハウとアプローチで、業界一の細粒化と均質化を実現した、生体への吸収性が格段に高い次世代型クルクミン製剤（商品名：TVクルクミン細粒化製剤 CR011L）の開発に成功、近々販売を開始する予定です。

また、その独自の製剤化技術を応用し、食品・素材メーカー、製薬企業等を対象に、難溶性あるいは吸収性、安定性に難のある機能性素材の「製剤化受託サービス」を、新たに提供して行く予定です。

（開発の背景）

クルクミン（ウコンに含まれる活性成分）については、近年、肝機能改善などその機能性がたいへん注目され、飲料、サプリメントなどさまざまな商品が多数販売されています。しかしながら、クルクミンは、元来溶解性が悪く体内への吸収性がよくないこと、また沈殿しやすい、褪色しやすいなど素材としての安定性の問題や、独特のクセのある味・風味などのため、食品・飲料の原料としての応用の面で問題があることが指摘されてきました。

セラバリューズでは、このような課題の解決をめざし、クルクミンの持つすぐれた機能性を、食品・飲料の商品開発や製造面でより効率的に活用できるように、製剤化技術の研究開発をすすめてきましたが、このほど、成分の血中への移行吸収を格段に改善した画期的なクルクミン製剤の開発に成功しました。

（製剤の特長）

1. 独自のノウハウとユニークなアプローチで、業界一の細粒化と均質化を実現しました。
2. その結果、生体吸収率が従来品の30倍以上と飛躍的に向上しました。
 - ・ ラットへの経口投与試験の結果、クルクミンの血中濃度が従来品にくらべ30～40倍と高く、生体への吸収性がきわめて高いことが実証されました。
 - ・ また、従来型クルクミン原料の30分の1程度の使用量でも、同等の血中濃度が得られることも同試験で確認されました。
 - ・ このように、使用量が少なくてすむため、コスト面でも安くつくることができるだけでなく、新しい応用分野でも高用量の必要性に対し柔軟に対応できます。
3. 独自の製法と配合により、分散性の安定化を実現しました。
 - ・ 従来品にみられた沈殿しやすいというクルクミン製剤の欠点を解消しました。
4. 製剤としての優れた成分安定性を実現しました。
 - ・ 耐光性、耐熱性に優れており、製剤としての成分安定性に優れています。
5. 従来品にくらべ、味や風味のクセがなく、さらに経時安定性にも優れています。
 - ・ したがって、食品や飲料への添加に最適です。

(販売価格)

未定。

(独自の製剤化技術を応用した「製剤化受託サービス」の提供)

上記クルクミン製剤(TV クルクミン細粒化製剤 CR011L)の製剤化技術は、他の難溶性あるいは安定性、吸収性に難のある機能性素材についても応用が可能であり、今後弊社では、この独自の技術を応用し、食品・素材メーカー、製薬企業等を対象に、あらたな「製剤化受託サービス」を提供していく予定です。

(参考資料)

□血中濃度測定試験結果グラフ(別紙 資料 A)

(株式会社セラバリュースの会社概要)

□代表 橋本 正

□本社所在地 東京都千代田区紀尾井町 3-12 紀尾井町ビル8F

TEL:03-3234-7677

□資本金 1億5千万円

□URL www.theravalues.com

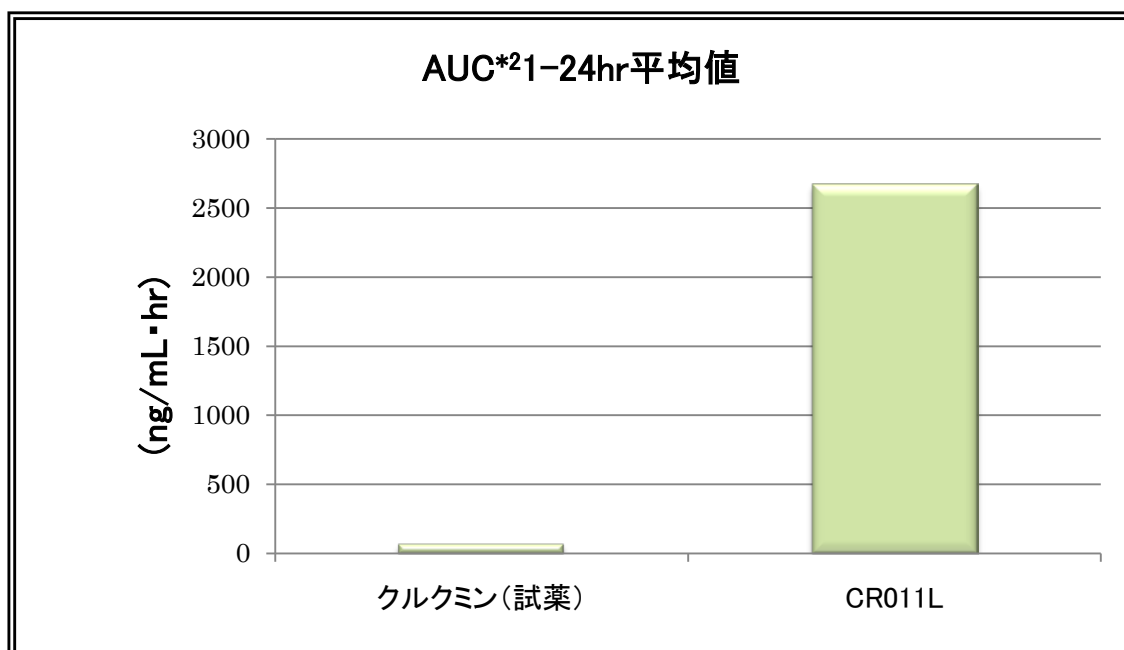
□主要事業

- ・機能性素材の開発および機能性の研究事業
- ・食品や医薬品の機能性評価(核内受容体解析、プロテオミクス解析)の受託事業
- ・創薬事業

(お問い合わせ先)

株式会社セラバリュース

営業企画部 高橋夏樹 (TEL:03-3234-7677)

(資料 A) 血中濃度測定試験^{*1} 結果

- クルクミン試薬に比べ、TVC クルクミン細粒化製剤 CR011L の場合、クルクミンの AUC^{*2} が 30 ~40 倍ときわめて高い結果がでました。

- (※1) ラットへの強制経口投与によるクルクミンの血中濃度測定試験。クルクミン試薬と TVC クルクミン細粒化製剤 CR011L を比較したもの。(いずれも投与量 50 mg/kg)
- (※2) AUC = 血中濃度-時間曲線下面積、area under the blood concentration-time curve
吸収率やバイオ・アベイラビリティ^{*3} の指標として用いられ、効果の強弱を反映するひとつの目安となります。
- (※3) 生物学的利用性 = 投与量に対して循環血中に移行した量の比率およびその速度